

資料5 モニタリングデータ

【設定基準】

市内交通の利用実態を測るため、取組指標のほかに、交通利便性に関する満足度と交通の利用者数をモニタリングする。

【使い方】

目標は設定しないが、数値に極端な変動がある場合、施策・取組を見直す資料として使う。

指標名	主な把握内容・使い道	データ元(確認主体・方法(例))	調査間隔
交通の利便性に関する満足度	多様な移動手段が利用されているか	市民調査	1年
路線バス利用者数	路線バスが使われているか	市統計	1年
鉄道駅別乗降人員	鉄道需要の動向	市統計	1年
コミュニティバス利用者数	コミュニティ交通が使われているか	市台帳	1年
支え合い交通利用者数(参考)	支え合い交通が使われているか	団体アンケート	1年
タクシー利用件数(多摩地区)	個別交通の活用状況	事業者・協会	1年
福祉有償運送利用件数	要支援者の移動実態	事業者	1年
シェアモビリティ利用回数	多様な移動手段の活用	事業者	1年

表 5-1 モニタリングデータ対象

資料 6 運用体制

計画の運用方針

各施策を着実に実行するため、行政、交通事業者、市民といった様々な主体の役割分担のもと、目標を共有し、連携しながら力を合わせて取り組み、本計画を推進していく。

また、本計画は、計画策定（Plan）、施策・事業の実施（Do）、モニタリング・評価（Check）、見直し・改善（Action）を繰り返す PDCA サイクルの考え方により推進していく。

毎年度の施策・事業の実施・評価・見直しという短期の PDCA サイクルと、計画期間を通しての長期の PDCA サイクルにより、計画の推進及び進捗管理を行っていく。

本計画の最終年次である 2031 年度末を目途に、PDCA サイクルに基づき、目標水準の達成状況や施策・事業の進捗状況等の評価を行った上で、計画全体の見直しを行う。

なお、本計画は毎年、「町田市交通計画推進協議会」による目標水準の達成状況や施策・事業の評価検証を行いながら、事業を推進する。

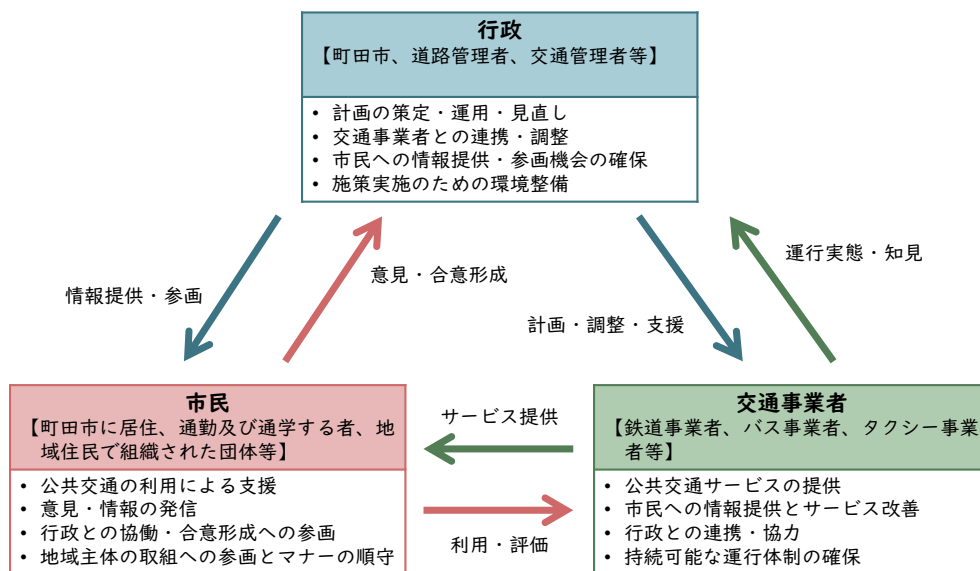


図 6-1 計画の運用に関する役割分担

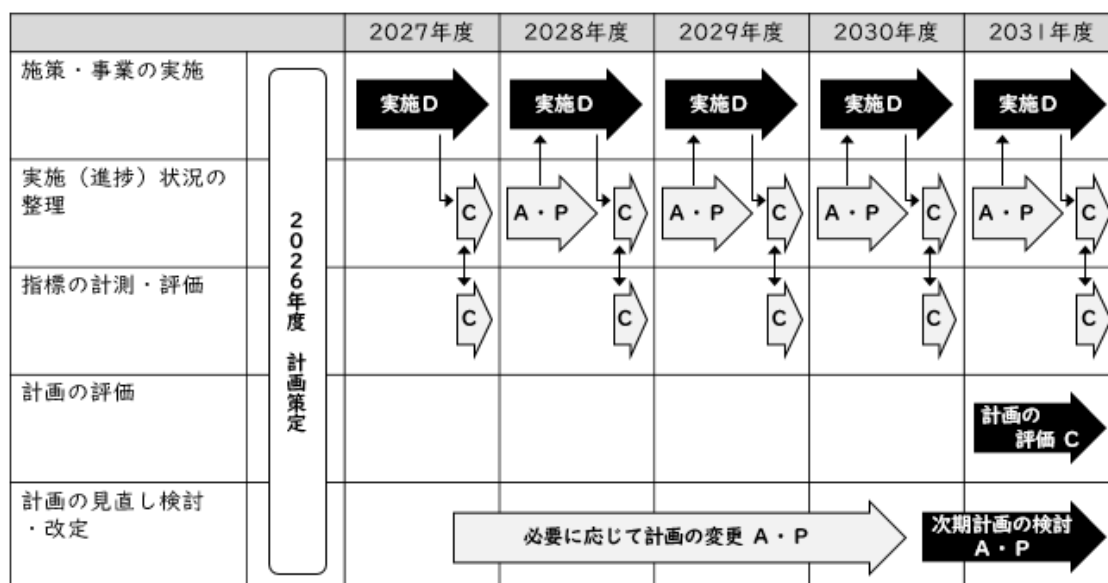


図 6-2 毎年度の短期の PDCA サイクル及び計画期間を通しての長期の PDCA サイクル